

タウンミーティング 会議録

日 時：平成 18 年 11 月 24 日（金） 19:00～20:55

場 所：親水の館（田家）

テーマ：「新生黒部市のまちづくり」 ～総合振興計画策定に向けて～

参加者：60 人

【事務局】

ご苦勞様でございます。予定しておりました時間になりましたので、ただいまから平成 18 年度黒部市タウンミーティングを始めさせていただきます。皆様ご案内のとおり、新市誕生後初めてのタウンミーティングで、市内 4 カ所で中学校下ごとに開催しているところでございます。

今回のテーマは、「総合振興計画の策定に向けて、新生黒部市のまちづくり」ということで始めさせていただきますと思います。最初にこのテーマに基づきまして市長からご説明申し上げます。この説明には、おおよそ 25 分程要するものと考えております。その後、順次会場の皆様からご提言をお受けいたしたいと思っております。

なお、本日受付で配布いたしました黄色のアンケート、このアンケートにお答えいただくとともに、実際にご発言されない方からも、たくさんの意見を賜りたいというふうに考えておりますので、日頃感じられるところなど、そちらの方にお書きいただきまして、お帰りの際に係の者に渡していただければというふうに思っております。お寄せいただいたご意見を参考にしながら、総合振興計画を策定していく予定にしておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、堀内市長からご挨拶とテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び下記の課題について（提起）」をご覧ください。

【事務局】

それでは、これから、会場の皆様からのご意見・ご提言をお受けいたしますが、発言される方は挙手をお願いいたします。係の者がマイクをお持ちいたしますので、地区名、お名前につきご意見を述べていただきたいと思います。

それと、もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中で、できるだけたくさんの方からご意見を頂戴したいと考えております。ご発言はなるべく簡潔に、お一人 3 分を目処にお願いいたします。それでは振興会にお願いして、あらかじめ発言の旨を伺っております 3 人の方からお願ひいたします。まず、石田地区の A さんからお願ひしたいと思います。

【A さん】

石田地区の A です。

まず第 1 点目は、交流人口の増加になる点ですけど、確かに新幹線の駅も非常に大事な一つですし、あと一つ、現在の J R 黒部駅も大事な一つの拠点となると私は思っています。そこで、まず、この J R 黒部駅と新幹線とのアクセスをどうしたらいいかっていうか、また、どう今黒部市の方で考えているかということと、今、J R 黒部駅は三日市側の方っていうか山側の方のだけの出入口しかありません。やっぱりこ

の駅をもっと活発にしていくには石田側の方、海側の方にも、もう一つ入り口があれば、使う人達も多くなると思いますし、この後、8号バイパス等も開通される予定になっていますので、是非とも、その8号バイパスとのアクセスもどういったふうにしていったらいいかということをお聞きします。

あと、今、話を聞いていまして、安全の面ですけど、子供の話が全然出てこなかったです。やっぱり、人間、子供が一番弱者だと思っています。学校等が終わったあと、今、一番問題になっているのは子供達の居場所がないってことです。外で遊んでいても、いろんな危険等があったり、学校終わって家に帰っても、おじいちゃん、おばあちゃんが居れば面倒を見てくれると思いますが、両親共稼ぎの場合は、家に帰っても鍵っ子になるってということで、子供達を預かる施設といったらおかしいですけど、何か子供達が学校終わった後、安心して行けるような場所、学童保育等できる場所があれば大変助かると思っています。以上のことが質問内容です。

【市長】

ありがとうございました。先程から新幹線の駅周辺整備、あるいは新幹線関連のアクセス道路等の話はしたわけで、新幹線の駅周辺整備あるいは関連事業は大変重要であるというふうに思っておりますが、その一方では、これまでもそうですし新幹線開業後も、やはり市民の皆さんの足となる今のJR駅周辺の整備は大変重要であると思っております。

JR黒部駅前整備計画検討委員会というものを、昨年12月に立ち上げさせていただいて、3回程いろいろ検討会をさせていただいております。この中では、駅前広場の整備については、平成21年度にその整備の構想を19年度、来年度中にまとめて、そして20年、21年までの間に、まちづくり交付金を活用して、第一段階的に整備をさせていただきたいと思っております。その整備の考え方は、やはり、今のJR駅前の交通安全対策、朝夕は非常に危険性があるということで、現在も社会的実験ということでフラワーポット、花などを並べさせていただいて、今年度から社会的実験を行っておるわけですが、その結果に基づいて正式に駅前の整備を行いたい。それは、交通安全対策と朝夕に多い送り迎えの車の整備、それから景観の問題、そして、冬の雪対策の問題などを含めて今の駅前を再整備をしたいということで、21年度までにまちづくり交付金事業で行いたいというふうに考えております。それが第一段階であります。

そして、今言われたように、新幹線とのアクセスについては、先程も言いましたように、新幹線の新駅（仮称）新黒部駅には地鉄の駅を併設したいということで、今、地鉄さんと協議をしております。当然、そこで乗り継ぎができれば、その地鉄が旧黒部支線を通して、そして今のJR線につなげる、結節するというのを今後目指していきたいというふうに思っておりますので、そのことについても、これからいろんな調査、研究をさせていただいて促進していきたいというふうに考えております。

それから、言われますように新幹線開業までには8号バイパスが石田地区を通ります。それが新幹線開業までには完成される予定であります。8号バイパスのことを石田地区の方もおられますので少しお話をさせていただきたいと思っておりますが、今現在、8号バイパス、入善方向上野・東孤間の整備が今進んでおりまして、来月18日には上野・東孤間が開通いたします。そうしましたら、現在8号線入善の上野から入善地区が全て完成いたしまして、そして四十八ヶ瀬大橋を通して今の古御堂までは一応、供用開始できます。古御堂から今の魚津の江口まで7,300m程あるわけですが、ここについてもなかなか皆さん方には工事の進捗が目に見えないと思っておりますが、黒部区間が約5km程ありますが、ここについては、土地の取得が70%程終わっております。70%程土地の取得が終わって、一部では埋蔵文化財の調査などが行われております。ですから年間10億円程度の予算で着実に前進していると。そしてまた、江口から黒部までの魚津区間で地権者と大変難航していたところもありますが、地権者との話し合いも終わりましたので、いよいよ魚津・黒部間も工事に入ると。19年度は片貝川の橋の橋脚の工事がいよいよ始まります。

それで、この8号バイパスが一辺に古御堂まで供用開始が難しいので、今言われているのは、石田の北星ゴムさんのところに市道南線との交差が予想される場所があるんですが、そこまでを第一段階として魚津の江口から市道南線までを、まず第一段階として整備を進め、そのあと南線から今の古御堂までを第二段階で進めると。いずれにしても黒部区間は新幹線開業までには開通をさせていただくということで国といういろいろお話をさせていただいておりますので、その8号線バイパスから今言われたJR黒部駅までのアクセス道路については、大変重要な道路であると思っております。ですから、駅の西側といいますか、海側の今のJRのところまで、8号線バイパスから真っすぐアクセスできる道路を新幹線開業までには整備をしたいと思っております。そしてそこには、当然パークアンドライド駐車場ということで西側にそれなりの規模の駐車場も整備をしたいというふうに思っています。

そこでもう一つ大事なことは、では海側、西側から駅に入れるのかということでもあります。今は東側、山側からしか駅には入れない訳ですが、西側から駅改札を通して入れるようにしなければならないというふうに思っております。その方法は、一般的には橋上駅を造って東も西からも入れるようにしたらどうかというご意見がありますが、そのことも含めて今後は検討したい。

というのは、今の黒部市の43,000人の人口規模で、駅の東側も西側も開発を進めていいのかと。賑わいを分割していいのかというようなことも含めて、入れない部分は自由通路で東側へ西側から自由に行ける何か通路を、それは橋上の通路、あるいは地下の通路いろいろ方法あると思いますが、開発は片側だけなのか両側するのかというようなことは、これから皆さん方と議論をして、その辺は決めていきたいというふうに思います。いずれにしても西側から駅に入れる橋上駅、あるいは自由通路を整備していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それから学童保育について言われましたので、学童保育のことについて少しお答え申し上げたいと思います。今、旧黒部市におきましては6カ所、学童保育をさせていただいております。石田地区も今現在行っておりますが、石田地区は石田小学校の体育館のクラブハウスを利用した学童保育を行っております。現在登録者が17人、だいたい平均的に1日12人程の児童が放課後保育を行っているという格好であります。今、6カ所学童保育を行っておりますが、4カ所が学校の施設を利用しております。

だいたい体育館のクラブハウスみたいなところ利用をしたところが4カ所。田家さんは近くの公園のところにハウスを作って、そこを学童保育ということにさせていただいておりますが、学校施設内が基本的には私はいいと思っております。何故なら子供たちの姿が目に見えるし、あるいは体育館とかグラウンドが自由に使えるし、そして移動することもないですから交通安全上も非常にいいんではないかというふうに思っておりますので、基本的には学校施設を利用した学童保育を行っていきたいというふうに思っております。

他の地区からも学童保育については大変要望があります。一昨日、宇奈月地区のタウンミーティングへ行ったわけですが、宇奈月地区では今現在どこも行っておりませんので、早くやって欲しいということですが、学童保育については無償ではございませんで、受益者負担費として1カ月3,500円から5,000円程の保育料をいただいて、当然、その期間の保険などにもちゃんと入っていただいて、そして学童保育の生徒たちのいろんな行事を計画したり、お楽しみ会や誕生会を開いたり、また、いろんな安全対策を行ったりして学童保育を行っているわけでありまして、条件が整ったところから学童保育を広げていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

よろしいでしょうか。

【Aさん】

学童保育だけでなく、学童が遊べる施設等も含めてのことで話したんですけど。

【市長】

児童館の話ではないかというように思います。児童館については、東部児童館と中央児童館、現在、2カ所ございます。この児童館の希望も各地区からたくさんあります。児童館につきましては、費用もかなりかかりますので、先程から言っております総合振興計画の中で、各地区の学校のあり方あるいは児童館のあり方も含めて計画が位置付けされるというふうに思っておりますので、石田地区に児童館がないということだろうというふうに思いますので、その点は総合振興計画の議論の中で進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

Aさんよろしいでしょうか。

【Aさん】

ありがとうございました。

【事務局】

どうもありがとうございました。続きまして田家地区のBさん、おいでになられますか。よろしく願いいたします。

【Bさん】

下田家野地区のBと申します。よろしくお願いいたします。審議会の方に諮問されました文章を読ませていただいたわけなんですけども、今程、市長さんからお話があった内容もちろん含んでいるわけですが、6番目に、特に検討が必要な課題ということで13点程あがっているんじゃないかと思います。その中ではいろんな具体的なもの、先程、話がありました新幹線ですとか市役所、消防庁舎そういったものもあれば、かなり抽象的にあげられていて、これからかなというようなもの、半々ぐらいな感じに印象もったんですが、その中で非常に具体性のあるものを見ましたところ、私どもの田家に関係があるものがほとんどないというのが素直な印象です。その中で、あえて何かないかなと考えてみましたら、道路網は新幹線との関連する幹線道路網ということがあられるわけですが、これが、田家にあてはまるような道路があるのかどうかというようなことです。田家は、非常に市内でも道路が悪い地区なんじゃないかなというのが私の率直な気持ちなんですけど、特に2本、県道が海の方と山の方つながっている県道があると思うんですが、どちらも大変狭いですし、特に8号線の上は全く歩道も設備されていませんし、それから私の近所でいえば、保育所前です。非常に危険で、田家保育所あたりの整備計画、狭い地域のことになるんですがお聞かせいただけないかなと。道路関係が一つです。

それから安心・安全というようなことで、その中で黒部市は自然環境が非常に素晴らしいということがあられるわけなんですけど、今の田家も大変素晴らしい自然環境があると。その中で、青少年の家なんですけど、今まで私ども素晴らしい施設を持っていること誇りに思っていたわけなんですけども、それが県から市へなったというようなことを新聞で読む程度なんですけど、今後、どのような形で、どう活かされていくのかなと。これは、非常に、それこそいいチャンスじゃないかなと。有効に使うことができれば大変素晴らしいものになるんじゃないかなと思っておりますので、その辺どうなのかなというようなことです。以上2点お願いします。

【市長】

ありがとうございました。田家が道路悪いっていうふうに言われたら、ちょっと困るんですが、田家地区には考えてみましたら、幹線道路が大変たくさん実はあるんです。現8号線もそうですし、県道福平石田線、あるいは県道の中山田家新線、そして県道の沓掛魚津線、それからスーパー農道が通っておりますし農免農道も通っている。数えてみれば6本の幹線道路があって、それぞれ課題は抱えております。

そういう中で、今言われた福平石田線あるいは中山田家新線等の拡幅については、前々から地区の要望で強くお話をいただいているわけでありまして、今程言いましたように、これからの10年間の間で道路整備も進めていかなければならないんですが、今後、最も大事なものは、やっぱり8号バイパスであります。

この8号バイパスは、平成26年度までには遅くとも整備していただくということで、これが一本つけば、黒部と魚津間が1日28,000台というふうに言われておりますが、これがかなり変わってくるのではないかと、現8の交通量もかなり変わってくるのではないかとこのように思っております。それから、8号バイパスの完成を目指していきたいというふうに思っているところであります。それから、8号バイパスから大布施、中新地区、新幹線の駅までの新駅中新線、背骨道路といわれる、これが一本幹線道路として整備されることによって、魚津地区から黒部方面に対する交通量がかなり変わってくるのではないかとこのように思っております。そういう中で、魚津から、一つは新幹線の駅までのアクセスがどうなるのかということが大変言われておりますが、一つは、今言いました8号線バイパスを通過して新駅中新線で新幹線駅にアクセスすると。それは魚津市側、黒部市よりも西側の地区からは、それが一本のアクセス道路のようになるのではないかとこのように思います。

ただし、現8号線から山側については、どの道を通って新幹線駅に向かうのかということでありまして。今一番期待をいたしておりますのが、平成24年までに完成させていただくようにお話しをしております山田地区、田家小学校の上にある山田地区から温泉病院の下を抜けて、そして前沢パークタウン、無田団地っていうんですかね、前沢のパークタウン住宅地を抜けて今の前沢の下垣内前沢線にでると。この道路が来年度にかけて、それから5年間、19年から24年までの間の5年間で下垣内前沢線まで完成させるということで検討、今協議をいたしておりますので、これができてでも8号線から山側の交通については、大分変わってくるのではないかなというふうに思います。

それぞれ、福平石田線と8号線交差の交差点部分の拡幅だとか、先程から言います中山田家新線の拡幅だとか、そういうことは伺っておりますが、状況を見ながら検討していきたいというふうに思います。ただ心配をいたしておりますのは、今の田家保育所の前の中山田家新線の前の車の通行については非常に心配をいたしております。周りに山側ではあまり家がない地区のところもあって、しかも朝は下りということで車がなくて非常にスピードが出ているというようなことで、保育所前あたりは非常に心配をいたしております。それらの交通対策については、何らかの対策を行わなければならないのではないかとこのように思っております。特に、田家保育所の向かいには、駐車場の整備も行う予定で今、進めておりまして、道路を横断する時の安全確保をどうするのかというようなことは大変重要な問題だというふうに思っておりますので、その点、いろいろまたご意見をいただきたいというふうに思います。

もう一点は、青少年の家についてです。青少年の家につきましては、まだ市が移管を受けるかということについては正式には決まっておりません。先日21日に市議会の全員協議会の中でご説明を申し上げて、議会の皆さんからいろいろご心配をいただいておりますが、概ねご了解いただいたものと思っております。今後、今月中には県と基本確認書を交わしたいというふうに思っております。

このことについては大変皆さんからご心配やご意見いただいたわけでありまして、そもそも論というのがありまして、県が県内5カ所ある青少年関係の家を2カ所にしたいというような行革委員会の答申を受けて、県が負担が多い、重いということで5カ所の内3カ所を廃止したいということで、その中の一つ

が黒部の青少年の家ということで、県が廃止方針を決めたと、その県がやれないのを何で市が受けなくてはならないのかということで、そもそも論が随分あります。

県は行革の中でそういう方針を決めたわけではありますが、我々として、この地域にとって青少年の家は必要な施設だということ、そしてまた、今後の利活用をもっと拡大できないか、青少年の健全育成とか宿泊学習とかそういうことだけではなくて、もっと広く地域の皆さんのもちろん利用もそうですし、生涯学習、文化、スポーツいろんなそういう活動あるいは企業、今いろいろ企業の皆さんにもご相談申し上げます。もっと企業として青少年を研修館として利用してもらえないかというようなことも含めて、これまで以上の利活用、市の中でもいろいろ利活用に対する考えを聞きました。大きく分けて16項目について利活用案が出たわけでありまして、それらをしっかり踏まえながら、今後、黒部市の施設として残していきたいというふうに思っております。特にこの地域の皆さんにお願いなんです、これまで以上のいろんな利活用、青少年だけではありません、皆さん方のいろんな活動、文化、スポーツ、いろんな趣味の活動、レクリエーションの活動でも結構ですから、今まで以上に青少年の家、名前も変わる予定でありますのでまだ決定しておりませんから言えませんが、例えば、「黒部市ふれあい交流館」みたいな格好で、また愛称もつけたいということで、今いろいろ検討しておりますが、そういうような格好でこれまで以上に利用していただくことをお願いを申し上げたいというふうに思います。

また、これまでと運営方針も変えていきたい。県と同じようなやり方をしておりましたら、県と同じような負担が残りますので、県のこれまでの負担の半分以上の負担位で何とかやり方を考えれば運営できないかというようなことも考えておりますので、その点も皆さん方にはご理解いただきたいというふうに思いますのでよろしくお願い申し上げたいと思います。

【事務局】

Bさんよろしいでしょうか。それでは次に東布施のCさん、おられますでしょうか。

【Cさん】

どうもご苦労さまです。東布施のCです。

まず一点目は、中山間地関係の保全の問題ですけれども、今程見ておりますと大変自然に恵まれたいい黒部と。そういうことで皆さんが賛同しておられると理解しています。ただ、少子高齢化が大変進みまして、特に山間部におきましては自分の田畑あるいは山林等経営したくてもできないような、そういう高齢者の方が出てきておりまして、それらをいろんな面で救済するっていう形でいろんな補助方法がありますけれども、その手続き等は大変難しいものがあります。そういうことで受益者負担をしながらでも振興会や市の農林整備課、そういうものを通じながら早急に草刈り、あるいは杉の手入れやらをしていくということが大事ではないのかと思っております。それが、最終的には環境保全、あるいは治山治水、そういうふうに結びついていって、大規模な災害を未然に防ぐような、そういうふうに結びついていくような気がしているわけでありまして、今はそのような制度にはなっていませんけれども、いち早くそれに取組んで、やっぱり黒部市は自然に恵まれているなど、そういうふうな、まず中山間地の整備そういうものを忘れないようにしてもらいたいなというのが一点です。

それと、今程、黒部の青少年の家の問題がありましたが、これらも今聞きまして、だいたい理解しているわけですけれども、子供たちを取り巻くいじめの問題やあるいは不登校、そしてまた自殺そういう話を聞いていますけれども、幸い黒部市内では、そういうことは聞いておりませんが、今後どのようなことがあるか分かりませんが、やはり、こういう青少年の家を中心にしながらもっと利用しやすいような、そして間口の広い、そういうふうなものにしていただきたいなと強く要望するものです。

それともう一点ですけども、今日この頃、いろんな面で行政関係の談合問題やら、あるいは行政マンの不祥事が多発していることがニュースで言っておりますけれども、新生黒部市において、そういうようなことがないように、市長が音頭をとりながら市の職員の教育を徹底してもらいたいと。この3点をお願いします。

【市長】

ありがとうございました。おっしゃられるように、森林がかなり荒れてきたということを我々も大変心配いたしておりますし、その結果、最近、熊の件も猿の件で、そういう被害の心配が大変増えてきたんではないかなというふうに思っております。

その原因というのは、皆さんご承知の通りでありまして、やはり薪や炭を利用して、そういう時代からかなり変わってまいりまして、そういうものが利用されなくなって整備がされなくなった、あるいは高齢化、少子化の中でそういう森林を整備する人が少なくなってきたというようなことで、山の状況がかなり変わってきたということでもあります。

それで、これも日本全国の大きな問題でもありますし、県も、水と緑の森づくり税ということで、来年度から新しい税を導入いたしました。ご承知だとは思いますが、皆さん方個人一人一人に県民税が500円、そして法人は事業規模によって違いますが、1,000円から4万円の間で、その水と緑の森づくり税というのが加算されることになりました。県では、そのことによって最初3億3,000万円程、この間2億7,000万円ってというような話もあって、正確にはまだわかりませんが、約3億円ほど、水と緑の森づくり税で県の収入が増えることとなります。それを活かして里山整備事業だとか緑再生事業だとか、そういうものを行うという予定であります。市もこの新税を利用して、市が主体になって、この里山整備、あるいは緑再生事業などの取り組みを今後行っていきたいというふうに思っております。これは19年度、来年度から実施されますので、その点皆さん方、実は税金がその部分増えるということをご理解いただいて、それを有効に活用していきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願い申し上げたいと思います。

また、田畑につきましては、中山間地の直接支払い制度というものが12年度から行われておりまして、このことについても継続して行っていただきたいというふうに思っておりますので、それらを含めて、これからの中山間地あるいは森林を守っていく、そのことが大変重要であります。森は、海の恋人ですが、よく言われますように、森を守らないと海まで良くなれないということでもありますので、その点は力を入れていきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それから、青少年の家のことを再度言われましたので、青少年の家の利活用の中に、実はニートの自立支援などもアイデアとしていただいております。今、宇奈月地区で、実は内山保育所を利用してニートの自立支援を行っておられる組織がございます。そういう組織の皆さんにも、今、ご相談を投げかけているんですが、青少年の家などを利用したそういう支援活動も是非考えていただきたいというようなことも考えておりますので、先程から言いますように、児童を中心とした青少年の活動だけではなくて、そういう本当に広く利活用することが、これからは可能になりますので、その点もご理解いただきたい。大人の皆さんの利用も当然、先程から言いましたようにやりたいというふうに思っておりますので、大人の皆さんの懇親を深めるアルコール程度は今後は許可できるようになると思いますので、今までは青少年の家というのは、そういうアルコールは飲んじゃいけないというルールでしたが、少しその辺は緩めていきたいと。ただし、いろんな方が利用されておりますので、他に迷惑がかからないような、そういう仕組みも作っておきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それから、言われた不祥事のこと、このことについては、まず、財団法人黒部市施設管理公社で大変大きな不祥事がございました。このことについては、当然、指定管理者として指定している、しかも今回の

指定管理者の指定は特命指定として施設管理公社をお願いした市の責任は大きく、強く感じておりまして、このことについては心からお詫び申し上げたいと思います。二度とこのようなことがないように、本当に公務員としての規律あるいは法令ルール順守、このことについては徹底指導したいと思っておりますし、外郭団体である財団が5団体あるわけでありますが、その外郭団体以外にも当然、市内部におきましてでも、今後、監査体制を見直して徹底指導を行いたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。これからこういうことが無いように気をつけて行います。よろしく申し上げます。

【事務局】

Cさんよろしいでしょうか。

【Cさん】

ありがとうございました。

【事務局】

以上、予定していました3名の方が終わりましたので、このあとは会場から順次ご質問を受けたいと思います。どなたか。一番奥の方でお手を挙げられておられる方。

【Dさん】

石田のDと言います。今、新幹線の開通と共に新庁舎ということで、恐らく三日市から動いていくんじゃないかっていう気もしますけど、そうなりますと、益々、三日市のまちもシャッター街っていうことになっていくと思います。ご承知のように黒部市の中で一番人口の多いところは石田でございます。それから三日市、生地という順番になっていきますが、私どもは三日市のまちがシャッター街になりますと、どうしても魚津の方へ出やすくなります。それで、どんどんどん魚津へ行ってしまうと。そういうことになりまして、最近は特に夜なんか出てみましても、やはり魚津は活気があります。青い灯や赤い灯がキラキラとついて、深夜までパラダイスという感じで若い者が活性化しております。

ところが、三日市はもうガッサリとしております。そういう点、やはり、市の市庁舎の移転に関しては、何か考えていかなければならないんじゃないかなと思いますし、それから、一番人口の多い石田6,000人台の石田を、やはりショッピングとかに何かこう力を入れて、何かやっていただきたいなと思います。高齢化と共にやっぱり足が不自由になりますと、ショッピングが遠いところにあるっていうこともちょっと問題化してくるので、そういうことも含めまして考えていただきたいと思います。以上です。

【市長】

ありがとうございました。黒部市で一番人口の多いのは石田であります。次に多いのは大布施であります。次に多いのは三日市ということで、随分状況は変わってまいっております。

それで、夜の魚津は活気があるということでありまして、三日市は寂しいということ。その上また、庁舎がどうなるのかというようなお話だったわけでありまして、実はこのタウンミーティングなどでやはり大事なのは、どこか考えてくれということではありません。庁舎問題について、場所とか位置、それから規模、内容あるいは時期、これらのことについてはいろんな意見をいただいております。少なくとも位置については4カ所程いただいております。その方々にそれぞれ言うんですが、なぜそこがいいんですか。だいたい皆さん地元を言われます。せっかくですから、どういう意見があるかだけ簡単に言っておきます

けど、前沢の方からも強く言われております。前沢、山田地区に庁舎があるべきだと。これは真剣に言われております。また、新幹線の駅周辺であって欲しいというもの、あるいはコラーレ周辺、三日市の中心街であって欲しいと。そういうようなこと、それぞれ皆さん真剣に言われます。私はその都度、何故ですか、それぞれ、やはり市民の皆さんが納得できる明確な理由があって、そして市民の多くの皆さんがそうだなって言われるところが庁舎の位置になるのではないかと思います。ですから、私が言いたいのは、どこにどういう規模でどういう内容でいつ頃どうしたらいいんだってということは、それぞれの皆さんが考えて意見を持っていて、そして、いろんな意見は当然出るんですが、それをまとめなければなりません。それは結果的には市民の皆さんの多くの皆さんが望まれるところに行くしかないと思います。そして、そのためには、いろんな情報が要ります。どういう理由でという、いろんな情報をいろいろ皆さん共有して、いろんなデータのもとに、あーそうだね、というようなところを選ばない限りは、誰かが言ったからそこやとかそういう話ではない。ですから、せっかく皆さん方こういうふうに参加されるわけですから、そういう私は、例えば石田が一番人口多いから石田へ持ってこい。そういう意見があっても別に悪くはない。ですから、皆さん方一人一人が新黒部市の市民として、どうあって欲しいという考えを持ってもらうことが大変重要であるというふうに思っておりますので、是非この点もご理解をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、魚津と比較されましたから言いますが、魚津が活気あって、三日市が寂しい。それは夜の店の数は明らかに魚津に負けております。ただし、市全体の活力等については、私は決して負けているというふうには思っておりませんし、実際、魚津市さんの数字は言いませんが、魚津市さんの予算規模あるいは投資的経費などを黒部市と比較して、どちらが多いんですかっていうことになりますと、黒部市の方が多いです。人口は約1割、黒部市が少ないわけでありますが、そういう全般の力を比べれば、私は決して負けているということはないというふうに思っておりますので、夜の灯りの数は少ないかもしれませんが、それだけが活力ではないというふうに思っておりますので、またいろんなご意見をいただきたいと思っております。

【事務局】

Dさんよろしいでしょうか。

【Dさん】

はい。

【事務局】

どうもありがとうございました。次、では男性の方お願いいたします。

【Eさん】

田家野のEと言います。先程、今後の課題ということで高齢化社会、今後どうしていこうかということでおっしゃっておられましたが、これから高齢化社会を支えていくのは私達であり、その後は私達の子供ということで、先程、教育問題について触れていなかったように感じますけども、私自身は子供たちの健全育成の基本となるのが小学校での情操教育かなというふうに考えております。

そこで、田家小学校の話になるんですが、今年度ですか、3つ教室増やしてもらったんですが、非常に宅地化が進みまして、今後また小学生が増えるというふうに考えられますし、それが6、7年は続くんじゃないかというふうに考えます。今、子供たちも狭いところで、ぶつかり合いながら遊んでいるということを、この前、学校からも聞いたんですけども、今後、教室が手狭になった場合どのような対策といいま

すか、これは田家小学校だけじゃなくても他のところも同じことが言えると思うんですけども、教育問題は大切ですので、そういったことについて意見を聞かせて欲しいと思います。

【市長】

ありがとうございました。おっしゃるとおり、教育問題は大変重要であります。

そこで、新市になりまして、今年度中に学校教育基本計画を立てる予定で、その検討委員会を今立ち上げるところであります。その中で、将来を見越した教育基本計画、黒部市の教育基本計画はどうあるべきか、というようなことをこれから議論するわけですが、当然、小学校もそれこそ統廃合の問題、小学校の位置の問題、規模の問題から先程言いましたように施設の耐震化になってない施設も随分ございます。小学校、中学校合わせて15校、黒部市にあるわけですが、今現在、耐震化になっていない校舎が6カ所、体育館が8カ所ございます。そしてまた、今の田家の青少年の家の体育館、本館のほうは移管後できるだけ早く耐震化しますが、体育館については、今の学校の耐震化優先度調査の中で優先順位を決めさせていただきたいというふうに思います。

それから、皆さん方ご存知ないかもしれませんが、旧宇奈月の4小学校が1校に今年4月から統合になった。残された旧小学校跡地の体育館が今4カ所あるんですが、それぞれ耐震化になってない。それをどう利用するかしないかは、また別問題として、利用するとすれば当然、耐震化の優先度調査の中で位置付けをされなければならない。

多くの課題があって、それを今、教育委員会の方に強く言っているのは、今後の10年間で何を優先してどうするのか。そしてまた、10年、20年を見越して今の学校の統廃合、やれるのかやれないのか。また、やるとすればどういう基本的な考え方でどうするのかということを引きちと理論的に整理しなければならない。それらを含めて、とにかく今年度中に計画は立てるとということの中で、今の学校の整備を進めていくということになります。

田家小学校につきましては、昨年度2クラス増築をさせていただきました。それで、今12クラスあると思いますが、19年、20年は12クラスで推移すると思いますが、予定では、22年には9クラスになります。今後3、4年は余り減らない、19、20、21年は余り減らないんですが、以降の保育所の園児数とかを確認しますと、22年には9クラス位になるだろうというようなこともだいたい予想されております。

そういう中で、先程から言いますように、とにかく少子化が進む中で新黒部市として小学校、実は中学校も含めてのあり方を先延ばしするのではなくて、基本的な計画をしっかりと立てなければならない。今、ここは鷹施中学校校下ですから耐震構造なんかにはなっておりますが、桜井中学校校舎ができてもう50年、来年で50年なるんです。それで、本当に50年過ぎた建物を耐震改造するのか、耐震改造でも間に合うのかというような意見もありまして、間に合わないとなればどうするんですかってことになると建て替えると。桜井中学校を建て替えるってというような話になると、同じ場所でやれるのか、本当に4中学校必要なのか、いろんなことを検討しなければならない、将来的にわたってです。その議論を避けるのではなくて、今の教育基本計画の中で方針を示すべきだということで教育委員会の方に言っておりますので、そういう中で、あくまでも基本は子供たちにとってどうあるべきか、ということが基本だと思います。黒部市で一番大きな小学校は中央小学校470人、一番少ないのは60人、小学校全体です。そういうことが子供達の教育にとってどうなのかということも含めて、今後の将来を計画しないと、学校については、来年、再来年にすぐ何かするといってできるものではございませんので、相当前もって計画をもたないと、なかなか見直しはできないんじゃないかと思っておりますので、そういう点を含めましても、小規模がいいっていうことであれば皆さん方と議論して、行えばいいし、その点、本格的な議論に入らなければならない。また、新黒部市になって、そういう議論を避けてはいけないと私は思っております。またご意見をいただきたい

と思います。

【事務局】

Eさんよろしいでしょうか。

【Eさん】

はい。

【事務局】

どうもありがとうございました。それでは他の方からのご意見を伺いたいと思います。はい、そちらの男性の方。

【Fさん】

若栗のFと申します。教えてもらいたいんですけど、以前、アンケートの最初の方に出てきたと思うんですけど、コミュニケーションていうのと参画っていうところがあったじゃないですか。それと、重点的なこととして協働っていうようなことを言われて、責任と何か役割みたいような話をされたんですけど、具体的になんかちょっと分かりにくいんで説明してもらえませんか。

【市長】

協働は分かりましたけど、すいません、その前に言われたのは何でしたっけ。

はい、分かりました。参画ですね。参画と協働ですね。分かりました。

この参画ってという言葉は随分前から使われるようになったんですが、参加するということと参画とどこが違うのかということではありますが、与えられてその会合なりいろんな場に参加するのと、計画の段階からどういう事業を行うかとか、あるいはどういう催し物を行うかということについて計画の段階から市民の皆さんに入っていて、そして、実際行う時にはその場に参加するというのが参画だと思います。計画の段階から入っていただくと。そして当然、その中で皆さん方の意見を言っていて、これはもっとこうした方がいいとか、ああした方がいいって意見をいただいて計画をたてる段階から入っていただいて、実際に、その事業を行う時には当然、参加をしていただくというのが参画だと思います。

そして協働ってというのは、行政と市民の皆さんとがお互い力を合わせて行うということだと思います。戦後、日本は60年余りたって、戦後の大変厳しい状況の中で、もっと豊かにもっと便利にということで、我々の先輩の皆さん方がこの日本の社会を作っていた。それと同時に、やはりもっと豊かにもっと便利にということの中で、もう一つは個人主義、自由というものを見つけていただいたとか作っていた。その中で何か起きてきたかということ、個人主義、今よくあるように、金のためなら何でもするとか、あるいは自分が一番大事で、家族も社会のこともあまり考えない人達が増えてくる。そういう中で、地域におけるいろんな仕事っていうものは、なかなか地域社会の中でできなくなる。

それが、結果的にはどうなってきたかといいますと、やれない部分というのは、殆んど行政にきたと私は思っています。例えば、よく保育の話をしませんが、子供を育てるというのは、家族とか社会の責任だったんだろうと思いますが、今、その保育ニーズっていうのは大変増えてまいりました。休日、休みの日も預かって欲しい。一時的に一時保育、休日保育、夜間あるいは年末年始、病後児、要は病気になった子供、病気の時は預かることはできませんが、回復したけどまだみんなの中に入って保育を受けることが難しい場合の病後児保育。0歳児から預かって欲しい。どんどん保育ニーズが増えてきた。

そういう中で、やはり行政だけではなかなか全部皆さん方の要望、ニーズを叶えることはできなくなりました。やはり、さっきの放課後の学童保育もそうなんですが、ボランティアの皆さんとか社会の皆さんの力を借りないと学童保育もできないのです。今、石田、田家地区もやっておりますが、それを行うには、その学童保育で子供達の世話をさせていただくそういう人達、当然、いくらかの報酬を払うけれどもある意味ではボランティアです。そういう方々をお願いして、地域で行政と市民の皆さん、あるいは地域の皆さんとか企業とかNPOのそういうボランティア法人とか、そういうところと力を合わせて一つの市民ニーズを賄いすることができるんです。

お互いに協力し合って一つの事業を行うということ、行政だけではなくて、行政の財源も限られておりますし、行政だけではなかなか手がまわりません。その辺を行政と市民の皆さんが力を合わせて一つのニーズを全うするということが大変大事だと思います。それを我々が協働というような呼び方で、共に働くということで一つの市民サービス、公共サービスを賄っていきたいというふうに思っておりますので、そういう点、お互いの役割を決めて行っていただけるように是非ご理解いただきたいと思います。

【事務局】

Fさんよろしいでしょうか。

【Fさん】

はい。

【事務局】

では、他の方からまたご意見をたまわりたいと思いますが、そちらの男性の方。

【Gさん】

犬山のGですけども、今日のテーマとは直接関係ないことですが、宮沢清掃センター、あこに持って行ったと。6月の話ですけども、市役所から許可証もらって行ったわけですが、何か、あこでいい顔してもらえんがですよ。というのは、どういうこと言われるかっていうと、これは、泊に持って行ってくれんかと、そう言うがです。そして、その時はとってもらったわけですが、まだまだあるもんだから、もう10日程してから行きゃ、もう顔忘れておられるやろうと、まあ、行ったわけです。そしたら、この前来た方やわねえって。これ泊に持って行ってもらえば安いがいと。だけど、犬山から泊までわざわざ持って行く、遠い距離ねえ、この年になって行かれんと。それで無理してとってもらったわけですが、何が、どういう理由があってそういうが言われらかなと思って、来たついでにちょっと質問してみたわけです。

【市長】

ありがとうございます。何持ってかれたんですか。

【Gさん】

剪定した木です。

【市長】

木ですか。

【Gさん】

市長さんにこういうこと言うが、次元の低い問題ですけども。

【市長】

いえいえ、宮沢清掃センターも大変悩んでおりまして、去年の春に宮沢清掃センターが不燃物の処理場ということで、大変多くの不燃物が埋め立てられまして、このままでは満杯になるってということで、嵩上げしました。嵩上げしたんですが、嵩上げしてでも今のままだったら、5年間程で満杯になる予定です。

その多くがビニ・プラ、ビニール・プラスチック関係だと思うんですが、今の新川広域圏のルールでは、朝日の焼却場では燃やせないことになっております。燃やしている自治体はたくさん、富山市も燃やしておられますが、今の新川広域圏の決まりの中では燃やせないということでありまして。

それで大変危惧いたしております、もしあそこが満杯になったらどうなるかということでありまして、それぞれ新川広域圏で魚津には今までの清掃センター、あるいは最終処分場あるいは火葬場、それぞれ広域圏のそういうゴミとかし尿とか火葬とかというものをそれぞれ各市、町でだいたい1つか2つずつ分担して持っているような格好になっています。その一つが不燃物で黒部市が宮沢清掃センターということですから。そこが何とかして延命、要は永く使えないかということで、今必死になって考えているんですが、そのためには持ち込まれる物、燃やせる物は持ち込んでもらったら困るということが原則です。そのために、職員は大変申し訳ないけども焼却場の方へ持って行ってくれというふうに言っているんだろうと私は思います。

【Gさん】

市役所の窓口でこれは宮沢清掃センターへ持って行ってくれと言われました。

【市長】

それは申し訳ございません。市の職員が可燃物と不燃物をどういうふうに判断したのか、ちょっと間違っていたのではないかなと思いますが、基本的には燃やせない物だけお持ちいただきたいと。それは引き取ることになつていきますので、燃やせるものは焼却場、朝日町の方へ持って行っていただきたいと思しますのでよろしく願いいたします。

とにかく、あそこが一杯、あの谷をまだ上まで埋め立てるってということになったら非常に心配な点がございまして。できるだけ不燃物を減らしていただきたい。できればビニ・プラは燃やせるように今、働きかけはしております。燃やせるように朝日の焼却場を少し改造すればできるんですが、少し改造しなければならぬということと、地元の皆さんに同意、ビニ・プラとか燃やさないという約束であったし、8時間、要はゴミが増えたら今度は燃やす時間が増えるんです。何時から何時まで燃やしますって地元の同意をいただいているので、それが延長になると、また同意をいただかなくてはいけないとか、いろいろ課題もありますので、是非、不燃物の持ち込みはできるだけ減らしていただきたいというふうに思いますのでよろしく願いいたします。

【事務局】

Gさんよろしいでしょうか。

【Gさん】

はい。

今で、畑の隅でもこういうもん燃やしたらやかましいからね。それで無理してこれ持って行っとらすよ、我々みんなでねえ、どれだけでも火に危ないがいけども、以上です。ありがとうございます。

【事務局】

はい、どうもありがとうございました。予定の時間もございますが、最後ということでどうぞ。

【Bさん】

今の話題にちょっと関係あるのかなと思って、どうしても聞きたいもんですから、検討が必要な議題の中の11番目に自然環境の保全とバイオマスの利活用の推進とあります。バイオマスの利活用ってことと何か関係があるのでしょうか。これがどういう意味なのか、例えばそういう企業を誘致するという事なのかちょっとその辺聞かせていただけませんか。

【市長】

バイオマスという言葉を使っているんですが、実は浄化槽の汚泥とか集落排水の汚泥処理なんかは今、先程言いました新川広域圏のし尿処理場、入善の板屋にあるし尿処理場で汚泥の処理をしております。しかしながら、大変老朽化して、改善をしなければならぬ状況になっております。そういう中で、あそこを建て替えるという構想があったんですが、今、生し尿、浄化槽処理されない生のものの持ち込みが非常に減っております。黒部市も平成26年ぐらいですか、ちょっと正確じゃないんですが、汲み取りの生し尿が激減しまして、平成26年位までには1日200リットル程しかなくなると。ドラム缶1本です。200リットル程しか生し尿がなくなる予定であります。ですから、その生し尿の処理とか汚泥の処理のために広域圏の板屋の処理場を大改装することによって、何十億円という費用をかけていいのか、ということで大議論しました。

その結果、どうなったかと言いますと、汚泥は各自で処理しようということになりました。各自とは各市、町で処理すると。そして、生し尿だけは板屋に生し尿の受け入れ施設を平成21年度までに完成して、生し尿は受け入れしよう。この量につきましては、下水道の整備の進捗によってかなり黒部と魚津と入善、朝日と差が出てまいりました。黒部は極端に減っているわけですが、まだまだ必要な町もあるわけでありまして、いずれにしても生処理だけ、生し尿の処理だけだったら3分の1程の投資で板屋の処理場が建て直すことができるということが分かりまして、生し尿だけにしよう。生し尿を板屋に持ち込んで、そこで20倍ほどに薄めて結果的には入善町の下水道に流そうよと、こういうことに話をしております。

そうしたら汚泥はどうするんだと。汚泥は各自で処理するということでもあります。そこで今、黒部市の浄化センターに汚泥の濃縮棟を造ります。平成21年度までに造るんですが、汚泥をそこに持ち込むと。その汚泥と、生ゴミとかそういうゴミも一緒に持ち込んで、そこで一緒に処理することによって汚泥コストが発生するメタンガスとか、そういうもので再利用を図るというようなことを今、構想的には考えております。

まだ具体的には詰めておりませんが、浄化センターの敷地内で、そういうバイオマス構想を立てて、市民生活、下水道そして産業経済部それぞれがいろいろ横の連絡もしっかりとりながら、生ゴミとか汚泥とかそういうものの処理施設を下水道処理場のところに造って、そういう循環型社会の組織を作りたい。そんな組織を誰が運営するかは、まだこれからであります。そういうことも考えておまして、この地域全体のそういうような循環型の地域を作ることを目指しながら、我々はバイオマスタウン構想と

いうように、今検討を始めたところでございます。そういうものを今の総合振興計画の中に位置付けがでないかというふうに思っているところであります。

【事務局】

Bさんよろしいでしょうか。

それでは、こちら辺りでタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思います。

閉会にあたりまして、堀内市長から本日お集まりの皆様へのお礼も含めましてご挨拶申し上げます。

【市長】

大変長時間にわたりまして、そしてまた大変お疲れのところ、このように熱心にお集まりをいただきまして心から感謝申し上げたいと思います。先程から、いろんなお話があるわけでありますが、タウンミーティングでは、お互い固くならないでリラックスしているような自由な意見をやりとりするのが大切ではないかというふうに思っております。そういう中で、先程も申し上げましたが、総合振興計画の重点課題がたくさんあるわけでありますが、各分野において自分だったらこう考えとか自分だったらこうしていきたいとかという意見を、是非、一人一人の皆さんに持っていただいて、そこを行政で何か考えてやってくれるだろうということではなくて、大変限られた条件、もちろん財政も含めて大変限られた条件の中で、一つの意見をまとめて、そのまとめた意見の実現のためにお互いに力を合わせなければならないわけでありまして、意見をまとめるためには一人一人が考えて、いろんな情報を共有して真剣に行っていくということが大変重要でありますので、是非、皆さん方にはこういう場に参加をいただいて自由にご発言をいただくことをお願い申し上げたいと思います。

今日は自治振興会の役員の皆さん、町内会の役員の皆さんもおられますし、また市会議員さんも来ておられます。そういう皆さん方を通して、また意見を言うていただくことも大変重要だというふうに思いますので、是非、これからも参加をいただいて、いろんな意見を言うていただくようお願いを申し上げて一言感謝の言葉に変えさせていただきたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

【事務局】

どうもありがとうございました。皆様方にはお忘れ物のないようにご確認の程よろしく願いいたします。また、受付でお配りしましたアンケートはご記入の上、出口の受付の者にお渡し下さいますようお願いいたします。

どうもありがとうございました。